

富山県感染症発生動向速報

(2026 年第 36 週分・8 月 31 日～9 月 6 日)

■今週の主な動向

○インフルエンザの患者報告数は増加が続いています。

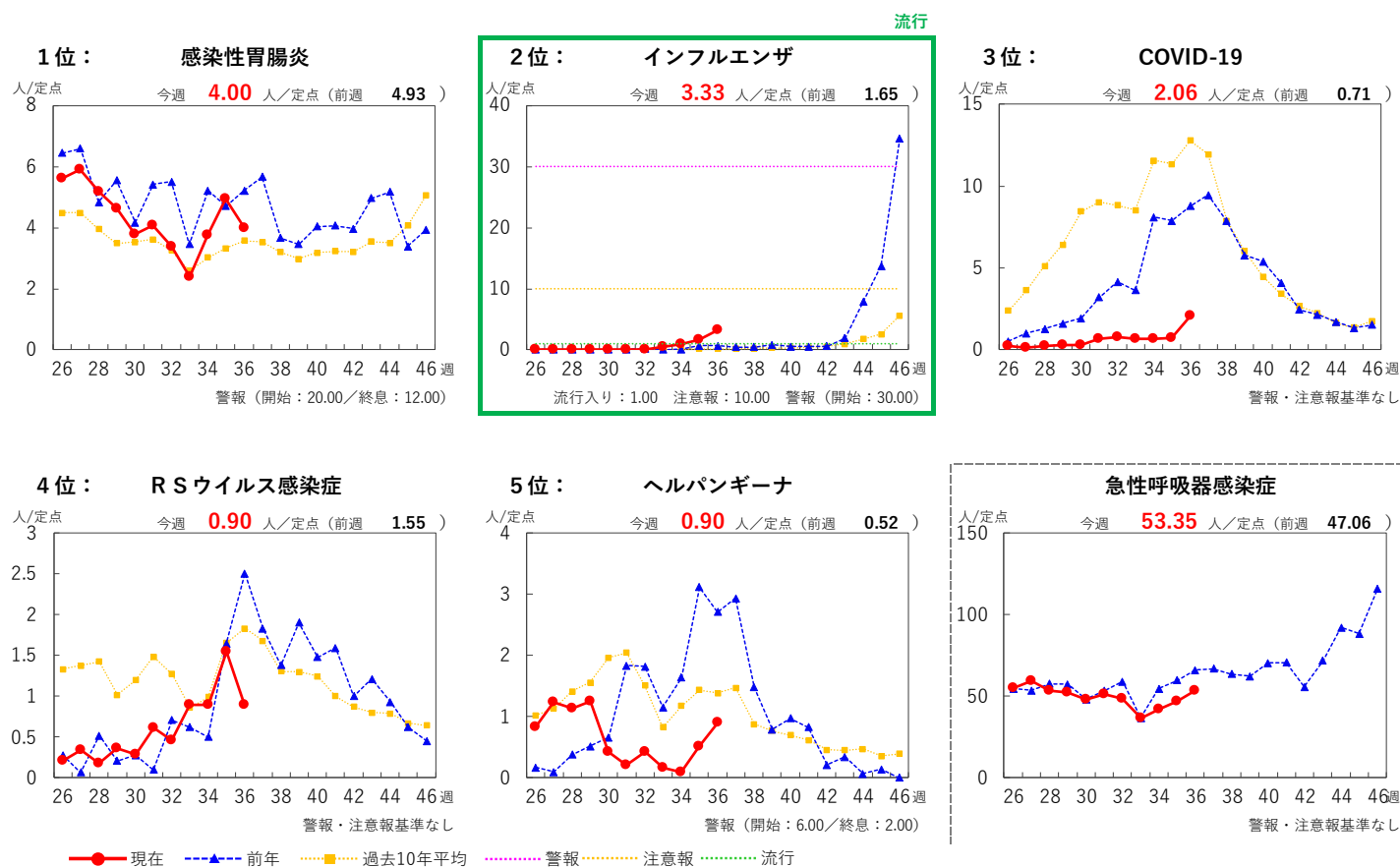
県内の患者報告数は 3.33 人/定点となり、先週 (1.65 人/定点) から増加しました。特に 10 歳未満、20～30 歳代で大きく増加しました。手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策を心がけましょう。(インフルエンザの疫学所見、第 35 週インフォメーション参照)

○新型コロナウイルス感染症の報告数が先週から増加しました。

県内の患者報告数は低い水準で推移していましたが、今週 2.06 人/定点となり、先週 (0.71 人/定点) から増加しました。特に 10 歳未満で大きく増加しました。インフルエンザ同様、基本的な感染対策を心がけましょう。(新型コロナウイルス感染症の疫学所見参照)

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症 (第 36 週・8/31～9/6)



厚生センター (保健所) 管内別、直近の推移: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 3 件 (①20 歳代、男性 ②20 歳代、女性 ③70 歳代、男性)

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 件 (70 歳代、男性、O157、VT2)

四類感染症 レジオネラ症 2 件 (①60 歳代、男性、肺炎型 ②80 歳代、男性、肺炎型)

五類感染症 急性脳炎 1 件 (50 歳代、女性)

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件 (80 歳代、男性)



富山県感染症情報センター (富山県衛生研究所内)

TEL: 0766-56-5431 (直通) HP: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>





各地で豪雨災害発生！ 感染症に要注意！！

《 インフォメーション 》

●災害発生後の感染症について

豪雨などの災害発生後は、衛生環境の悪化や避難生活による疲労・ストレスなどの要因が重なり、さまざまな感染症の発生や感染拡大のリスクが高まります。

不特定多数の人が集まる避難所等では、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの呼吸器感染症が集団内で拡大する可能性があるため、注意が必要です。発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合には、速やかに避難所の管理者等に申し出て、指示を受けてください。避難所では、マスクの着用、適切な手洗い・手指消毒、咳エチケットなどの基本的な感染対策を心がけましょう。また、感染性胃腸炎の発生リスクも高まることから、食事前やトイレの後などの手指衛生を徹底することが重要です（[富山県／避難所での食中毒予防について](#)、[災害時における避難所での感染症対策 | 厚生労働省](#)参照）。

また、災害後の復旧作業などの屋外活動では、レジオネラ症、破傷風、ダニ媒介感染症などにも注意が必要です。レジオネラ症はレジオネラ属菌を含むエアロゾルや粉じんを吸入することで発症します（[第 32 週インフォメーション](#)参照）。破傷風は土壤中に広く常在する破傷風菌が受傷部位から体内に侵入することで発症します。泥や土に触れたり、粉じんを吸入したりする機会が増えるため、肌の露出を避け、長袖・長ズボンを着用するとともに、ゴーグル、ゴム手袋、防じんマスク等を適切に使用しましょう。災害後の活動に関連して発熱や咳などの症状がみられた場合には、早めに医療機関を受診してください。

※災害後に注意が必要な感染症については、下表をご覧ください。

避難所、ボランティア作業での感染症発生リスク

疾患名	感染場所	リスク	対策
呼吸器感染症	避難所	生活の場を共有すること、密な空間で感染リスクが高い インフルエンザ、COVID-19、RSウイルス感染症が流行している場合、 高齢者や乳幼児では特に注意が必要 特に重症化しやすい高齢者や年齢を問わず基礎疾患のある方の感染を防ぐため、避難所共用施設での感染予防、体調不良者の早期発見が重要	共用施設の消毒、換気 健康観察、有症状者の隔離・早期受診体制の確保 飛沫感染対策の徹底
	ボランティアによる持ち込み	流行地域から持ち込まれるリスクあり	ボランティアの健康観察 ワクチン接種状況の確認
感染性胃腸炎	避難所	季節によって様々な病原体による食中毒が起こりやすい 炊き出し、配給などから食中毒が発生するリスクがある	適切な食品、衛生管理
日本紅斑熱 ツツガムシ病 SFTS	ボランティア等作業時	ダニ刺傷の場合には疾患の発生リスクがある	肌の露出・素手作業の回避 ダニ刺傷への注意喚起
麻しん・風しん	避難所	流行時での集団での感染拡大がありうるが発生リスクは低い	通常の感染対策の継続
レジオネラ症	避難所 ボランティア等作業時	循環式浴槽や貯水が共用使用されている場合のリスクあり ボランティア等作業時の曝露リスクあり	口に含まない、消毒の実施 肌の露出・素手作業の回避
破傷風	ボランティア等作業時	土砂災害の救護作業で外傷のリスクあり ボランティア等作業従事者は定期接種世代が多いと想定	肌の露出・素手作業の回避 ワクチン接種
レプトスピラ症	ボランティア等作業時	大雨被害の後で汚水に触れる作業が発生するリスクがある	肌の露出・素手作業の回避

参照：令和3年夏季の水害に関して被災地域において注意すべき感染症について（2021年7月9日現在） | 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトより改変



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第36週 2026年8月31日～2026年9月6日）

分類		疾患	今週報告分（第36週）						累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）					
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
全数把握	二類感染症	結核			1		2	3	5	3	18	9	37	72
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く					1	1	5	1	7	6	22	41
	三類感染症	細菌性赤痢											1	1
		腸管出血性大腸菌感染症		1				1	3	1	7	2	8	21
	四類感染症	E型肝炎							1		1		1	3
		デング熱											1	1
		マラリア											2	2
		レジオネラ症			1		1	2	1	2	9	3	17	32
	五類感染症	急性脳炎					1	1	2				3	5
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	6	10
		後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）											1	1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症					1	1			2		5	7
		侵襲性髄膜炎菌感染症										1		1
		侵襲性肺炎球菌感染症							3		7	2	5	17
		水痘（入院例）							1	2	2		3	8
		多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
		梅毒							5	2	9	1	15	32
		破傷風											1	1
		百日咳							1				7	8
		麻しん									4		4	8
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	184	223	907	250	997	2,561	10,165	9,308	35,692	9,932	44,740	109,837
			26.29	44.60	69.77	35.71	62.31	53.35						
		インフルエンザ	8	5	75	9	63	160	1,475	1,231	3,475	1,461	4,802	12,444
			1.14	1.00	5.77	1.29	3.94	3.33						
		COVID-19	12		55	25	7	99	315	153	444	221	557	1,690
	小児科定点（29定点）		1.71		4.23	3.57	0.44	2.06						
		R Sウイルス感染症			22	2	2	26	30	12	235	47	164	488
					2.75	0.50	0.20	0.90						
		咽頭結膜熱	2		4		2	8	37	23	263	2	81	406
			0.50		0.50		0.20	0.28						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	11	1	10	24	158	207	1,441	230	1,367	3,403
			0.25	0.33	1.38	0.25	1.00	0.83						
		感染性胃腸炎	19	12	3	3	79	116	826	681	1,148	311	4,136	7,102
			4.75	4.00	0.38	0.75	7.90	4.00						
		水痘			9	2	3	14	3	17	56	11	117	204
					1.13	0.50	0.30	0.48						
		手足口病	5	1	5	1	8	20	45	183	749	122	1,050	2,149
			1.25	0.33	0.63	0.25	0.80	0.69						
		伝染性紅斑							8	3	26	11	13	61
		突発性発しん		1	3	1	4	9	7	26	115	27	126	301
				0.33	0.38	0.25	0.40	0.31						
		ヘルパンギーナ		6	16		4	26	18	56	93	19	162	348
				2.00	2.00		0.40	0.90						
	流行性耳下腺炎							3	1	5	4	9	22	
	眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎	1	1		3		5	11	3	15	12		41
			1.00	1.00		3.00		0.71						
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											2	2
無菌性髄膜炎								2					2	
マイコプラズマ肺炎								9		3	5	7	24	
入院サーベイランス（5定点）	クラミジア肺炎										2		2	
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									2	1		3	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）	1		1		1	3	1		1		1	3	
	COVID-19による入院患者	1				1	2	26	18	7	12	62	125	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2026年第36週（8/31～）の集計です。

インフルエンザ情報（富山県の型別患者報告状況）

このデータは、定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

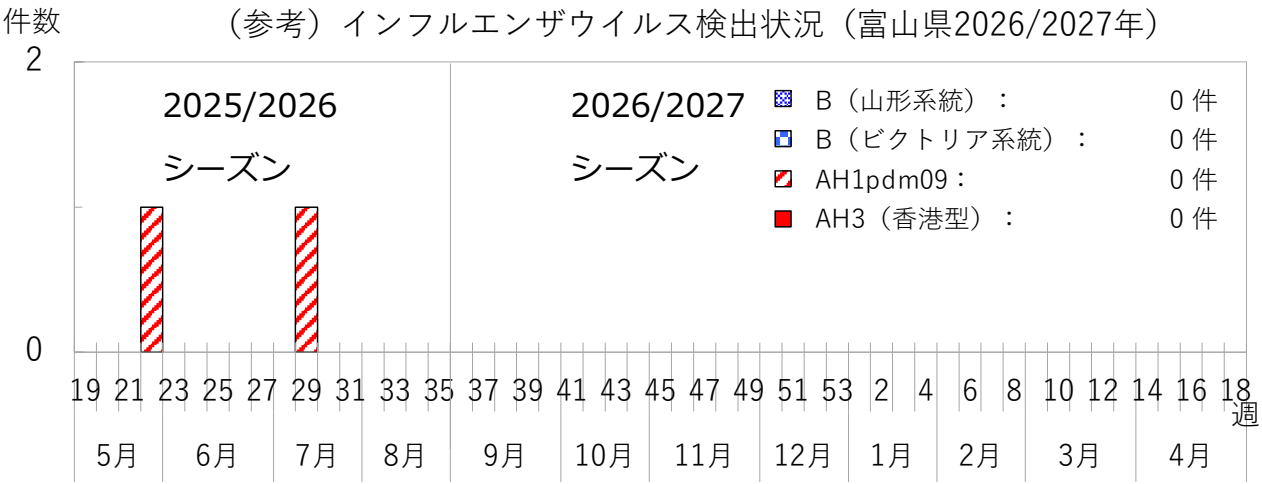
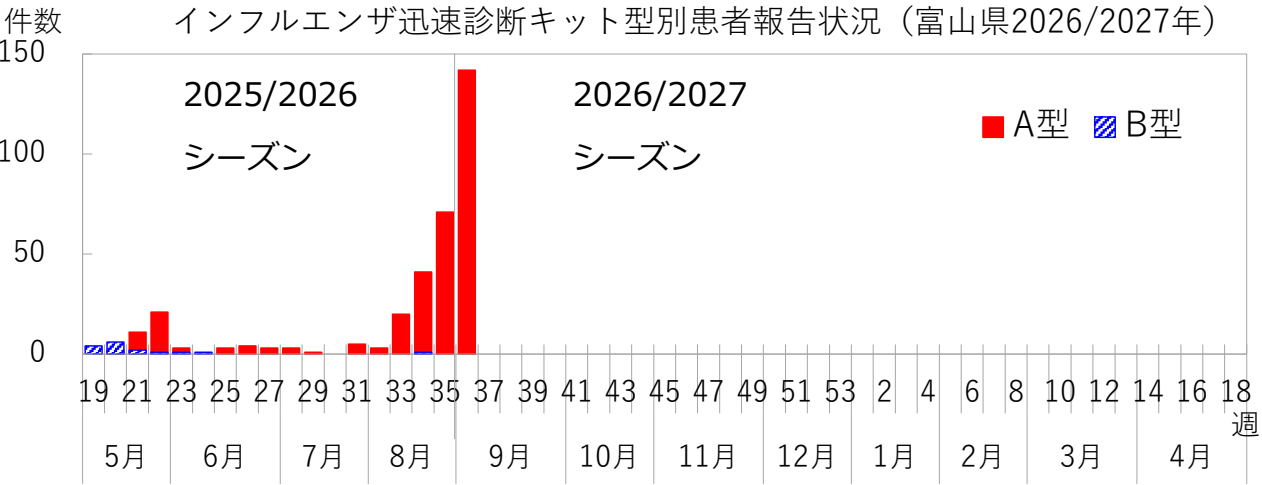
現在、下の表によると、A型が88.8%となっています。

第36週（8/31～9/6）：富山県 3.33人/定点（単位：件）

厚生センター・保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他※2	合計
		A型	B型		
新川	4 / 7	8	0	0	8
中部	3 / 5	5	0	0	5
高岡	11 / 13	67	0	8	75
砺波	5 / 7	9	0	0	9
富山市	12 / 16	53	0	10	63
富山県	35 / 48※1	142	0	18	160
富山県累計（2026年36週～）		142	0	18	160

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が35か所あったことを示します。

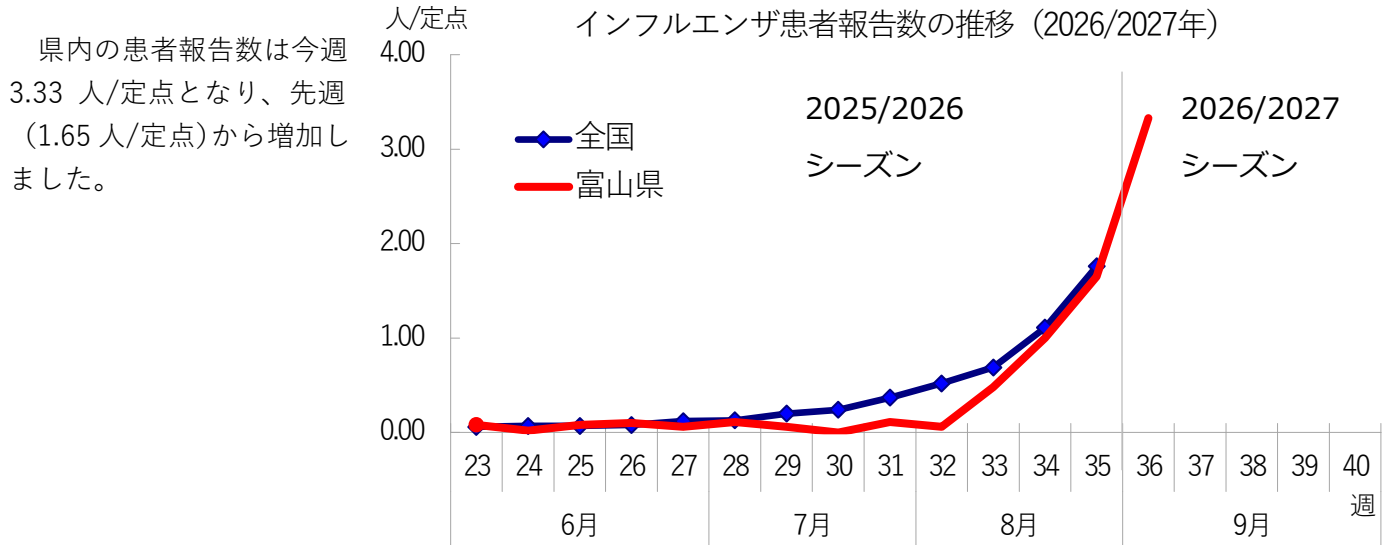
※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



インフルエンザ情報（全国、富山県の患者報告状況）

● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況 第 36 週（8/31～9/6）

富山県 3.33 人/定点 [新川 (1.14)、中部 (1.00)、高岡 (5.77)、砺波 (1.29)、富山市 (3.94)]



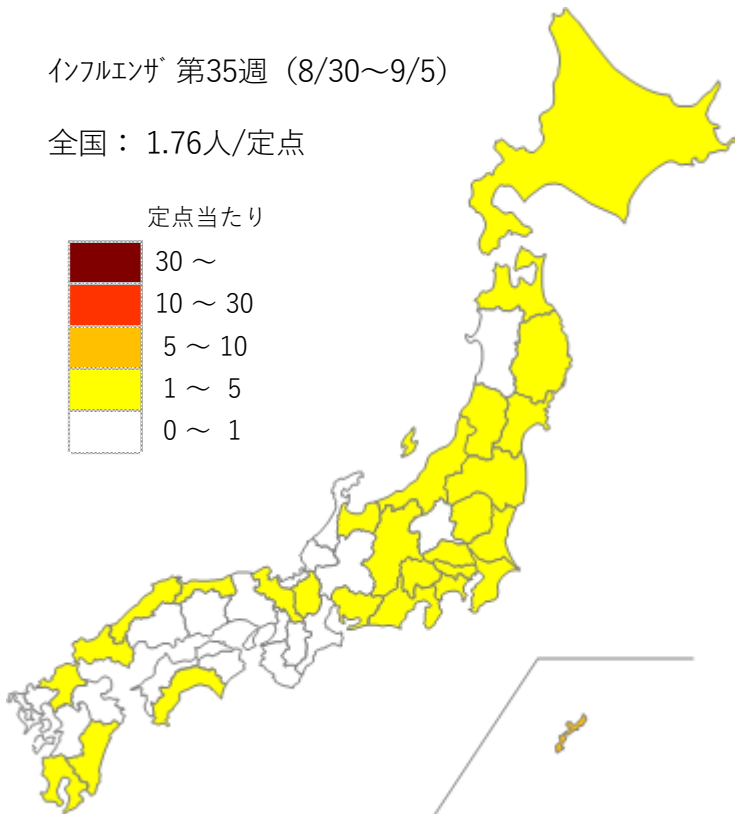
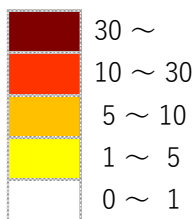
● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第 35 週（8/24～8/30）

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり 1.76 人となり、前週の 1.11 人より増加しました。39 都道府県で前週より増加しています。7 県で前週より減少しています。

インフルエンザ 第35週 (8/30～9/5)

全国：1.76人/定点

定点当たり



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	1.62 ↑	滋賀県	1.23 ↑
青森県	2.88 ↑	京都府	2.26 ↑
岩手県	4.33 ↑	大阪府	0.77 ↑
宮城県	2.44 ↑	兵庫県	0.83 ↑
秋田県	0.84 →	奈良県	0.79 ↑
山形県	1.28 ↑	和歌山県	0.49 ↑
福島県	1.79 ↑	鳥取県	1.90 ↑
茨城県	2.10 ↑	島根県	1.00 ↑
栃木県	1.64 ↑	岡山県	0.34 ↓
群馬県	0.87 ↑	広島県	0.91 ↑
埼玉県	2.58 ↑	山口県	1.59 ↑
千葉県	2.51 ↑	徳島県	0.76 ↑
東京都	2.65 ↑	香川県	0.96 ↑
神奈川県	2.99 ↑	愛媛県	0.39 ↓
新潟県	3.58 ↑	高知県	1.59 ↑
富山県	1.65 ↑	福岡県	1.31 ↑
石川県	0.28 ↓	佐賀県	0.38 ↓
福井県	0.72 ↑	長崎県	0.94 ↓
山梨県	1.09 ↑	熊本県	0.83 ↓
長野県	1.08 ↑	大分県	0.90 ↑
岐阜県	0.47 ↓	宮崎県	1.43 ↑
静岡県	1.35 ↑	鹿児島県	2.32 ↑
愛知県	1.10 ↑	沖縄県	8.50 ↑
三重県	0.93 ↑	全国	1.76 ↑



○感染症発生動向調査報告状況（2026年8月分）

五類感染症 定点把握 月報対象疾患 (上段…報告数、下段…定点医療機関当たりの報告数)		8月報告分						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
STD定点 (10定点)	性器クラミジア感染症			4		7	11			25		54	79
				1.33		1.75	1.10						
	性器ヘルペスウイルス感染症		1			4	5		7	3		37	47
			1.00			1.00	0.50						
	尖圭コンジローマ									3	3	6	12
	淋菌感染症									2		4	6
基幹定点 (5定点)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		3	1		2	6	3	9	10	7	34	63
			3.00	1.00		2.00	1.20						
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症							1					1

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。